

第13次全国市長会 代表市長中国訪問団



第13次全国市長会代表市長中国訪問団一行と王秀雲・中日友好協会副会長（釣魚台国賓館）

全国市長会は、中日友好協会を通じて日中両国都市間の友好親善を図り、相互理解を深めるため、日中両国市長の相互交流を推進している。

この度、本会と同協会との友好交流開始40周年事業として派遣した第13次全国市長会代表市長中国訪問団は、団長に松浦・松江市長、団員に小林・三笠市長、井口・岩沼市長、高橋・高岡市長、会田・守谷市長、辻・和泉市長、野崎・阿波市長、横尾・多久市長および事務局から荒木・事務総長ほか職員2名の総勢11名で編成し、平成26年4月21日から26日までの6日間の日程で北京、西安、成都の各都市を訪問し、各地で熱烈的な歓迎を受けた。

北京市では、中日友好協会の王秀雲・副会長を表敬したほか、公式訪問の西安市では、呉義勤・副市長、成都市では、朱志宏・副市長をそれぞれ表敬訪問し、観光のまちづくりや防災対策等について意見交換を行った。

特に、西安ではハイテク産業開発区、成都では都江堰水利施設などをそれぞれ視察したほか、四川省人民対外友好協会主催の省内副市長等との意見交換会を行うなど両国友好の促進を図った。



呉義勤・西安市副市長を表敬訪問



西安ハイテク開発区管理委員会の説明を受ける訪問団



西安ハイテク開発区管理委員会展示館を視察



朱志宏・成都市副市長を表敬訪問



都江堰规划(企画)館を視察



四川地震被災地の五桂村を視察



第13次全国市長会代表市長中国訪問団団長

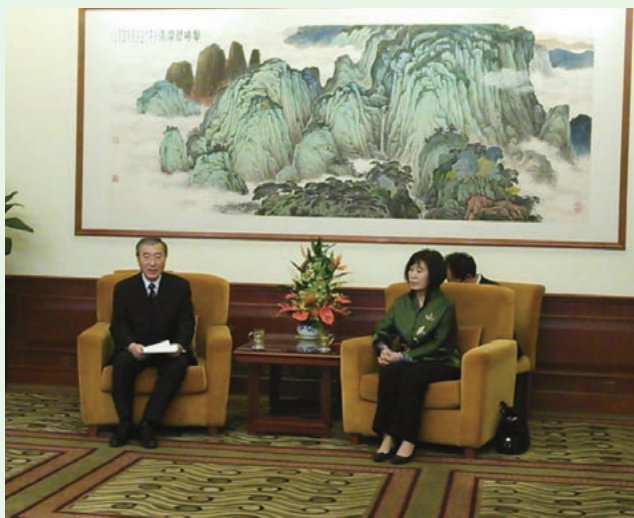
松江市長

松浦正敬

はじめに

第13次全国市長会代表市長中国訪問団は、8名の市長と全国市長会事務局職員3名の総勢11名で、2014年4月21日の朝、羽田空港から北京に向けて出発しました。両国間の状況やPM2.5などを考えると、はたして充実した訪問となるだろうかと心配しながらの旅立ちでした。PM2.5については、6日間の滞在期間中特に意識するほどの状況ではありませんでした。

私たちの訪問がどのように受け止められているだろうかということも心配でしたが全くの杞憂で



王秀雲・中日友好協会副会長を表敬訪問

した。訪問先では皆さんから判で押したように「両国間には困難な状況があるが、そのような時だからこそ地方間の交流を活発にし、国を突き上げていくべきだ」といった発言があり、交流を積極的に進めたいという気持ちを感じました。

北京市について

北京に到着後クレア北京事務所を訪問し、中国の地方制度、日中の友好都市締結や交流状況について説明を受けましたが、その中で日本と中国の観光客の動向に明確な違いがあるということがわかりました。一昨年9月に尖閣が国有化されて以来、中国からの観光客は極端に減少したのですが、昨年の9月以来回復傾向が続き現在では2年前の状態に戻っています。これに対し日本からの観光客は現在でも減少しており回復の兆しはありません。日本では一昨年9月の中国の主要都市での日本系のスパーなどへの暴動事件や中国の尖閣へのたびたびの侵入などが報道され、中国への観光は不安だという認識が依然として強いことが原因のようです。西安や成都に行っても日本人観光客に一人も出会わなかったことで、その事実を実感しました。ともかく中国政府は日本人に中国を訪れてもらいたいと思っていることは確かです。両国の地方同士が交流を活発化することで両国民の理解が促進されるよう努めていきたいと思っています。

クレア訪問の後、交流が始まって40周年となります

中日友好協会を訪ね、中国の迎賓館である釣魚台で王秀雲・副会長とリラックスした雰囲気の中で懇談しました。釣魚台の料理は調味料を一切使わず、食材から出るだしを使うそうで、これが中国料理かと思うほどまろやかなものでした。また、以前と違いほとんどお酒が出ません。習近平体制になってから公務員は健康保持のためお酒を控えるようにという指示が出ているということの後になつて聞きました。

翌日は快晴、気温26度、秋田と同緯度とはとても思えません。北京市内の国家博物館、後海周辺、四合院、恭王府などを見学しました。恭王府は、乾隆時代、和坤という賄賂で巨万の富を築いた政治家の、また、清朝末期の洋務運動の指導者だった恭親王の館だったところです。時間が足りず駆け足で終わったのが残念でした。

西安について

4月23日7時前にホテルを出発し9時前の便で11時過ぎに西安に到着。すぐに市役所訪問。西安市は昔の長安で、中国の6古都のひとつ、850万人の人口を抱える西北部の中心市。観光地としてだけではなく、近年はIT、航空、宇宙、火力発電などの産業が発達しています。また、大学は60校と北京、上海に次いで多く、研究所も400カ所と教育レベルが高いのが特徴。地下鉄は15路線計画されており、2路線が開通しています。そうした中で、私たちは西安

ハイテク開発区を視察しました。電子通信、先端製造、バイオ医療と近代サービス業の4つの柱産業の工場から成り立っており、30万人が働く巨大なもので、サムスンが最近進出し、これを中心にさらなる発展を目指している印象を受けましたが、日本企業はその関連会社としての位置付けで、何か物足りない思いをしました。それにしても、この開発区を取り巻くどこまでも続く巨大なマンション群には圧倒されました。ガイドの説明では前漢時代の遺跡がある場所は開発区と道路で区別し、公園にして保護しているとのことでした。

翌日は有名な兵馬俑を見学しました。私自身は3回目ですが、何度見てもその迫力に圧倒されます。現在4カ所が発掘されているとのことですが、始皇帝の陵墓を中心とした区画が100カ所以上あるとのことでした。その巨大な全体の規模から始皇帝の権力のすさまじさを感じました。

成都について

14時過ぎに西安空港を出発し、16時30分成都空港に到着しました。日程を変更して武侯祠へ。本来劉備玄德とその家来を祀る建物ですが、諸葛孔明だけは独立して祀られており、全体の名称も武侯祠となっているように、諸葛孔明がいかに尊敬されているかがうかがえます。出師の表や孔明の墓などもあり興味は尽きません。この武侯祠のそばに錦里という三国時代の店構えのところに多数の土産品店や川劇を上演する劇場、名物の火鍋を出す料理店が並んでいます。成都市が作った施設ですが、ウィークデーにもかかわらず大変な賑わいでした。日本ではイベントを打つての単発的な人出集めとなりますが、毎日このような人出があることにびっくりしました。歴史的な建造物を観光にうまく活用している好例だと思います。

一方、日本では文化財規制が厳しく活用という視点が足りないように思います。西安でも唐時代の中心地をうまく活用し、たくさんの人たちが楽しんでいました。日本ももう少し見習うべきではないでしょうか。

25日は期間中初めての雨、午前中成都市役所を訪問。成都市は三国時代の蜀の都が置かれたところ。現在は、人口1400万人、中国西南地区の中心地、中国第4位の空港により中国国内はもとより、世界とも直結。地下鉄は7路線が計画され、2路線が開通。世界トップ500社のうち250社が進出し、日本からはトヨタ、伊藤忠、ヨーカドーなどが進出、近くジェトロ事務所が開設される予定。日本からの観光客は年間13万人でアメリカに次ぐ多さ。市側からはより一層の交流を期待しているとの発言がありました。

その後、2300年前の洪水調整施設が残つて今も機能している都江堰（世界遺産）を視察。ここ



成都市副市長を表敬訪問

はほかに古くからの盆栽技術が継承されているところでもあります。成都の木である銀杏が盆栽として道路の両側を飾っていました。銀杏を盆栽にする技術は日本にはないとか……。

成都は2008年の大地震に見舞われたところですが、翠月湖鎮五桂村を訪ね、集落移転の状況を視察しました。もともと29戸の集落だったところが壊滅しましたが、その後その場所を整備し、現在145戸の集落が再生されていました。各家は160㎡の広さでガスや水道、駐車場が完備されていました。建設費用は20万円、うち15万円が政府の補助。また、村の中心部には交番や集会所、加工場などの施設が完備されていました。

夕方、四川省人民対外友好協会主催の懇親会があり、四川省各市の副市長さんたちが出席され交流の機会を持つことができました。皆さん異口同音に市の歴史文化や日中地域間交流を推進したいと述べておられました。私たちもすべての日程を終えホッとしたところでもあり、大変楽しい盛り上がった懇親会となりました。

おわりに

26日7時ホテルを出発、9時過ぎの成田行き直行便で中国を後にし、14時半過ぎ無事日本の土を踏むことができました。久しぶりに真つ青な青空を見て、日本はきれいな、いい国だとしみじみ思いました。

中日友好協会の朱丹さんと王磊さんには最初から最後まで誠心誠意付き添っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。最初にも述べましたように日中間にはさまざまな課題がありますが、そうした時期だからこそ日中間の地域間交流は続いているかなければならないという思いを一層強くしたところです。